

今日もJALグループの翼をお選びいただき、あ
りがとうございます。

澄み渡る空気に街路樹が色づき、芸術に触れたく
なる季節になりました。文化の日がめぐってくる今
月に、コンサートや美術館に足を運ばれる方も多い
かもしれません。

さて、美術展に並ぶ名画の多くが、空を旅してき
ていることをご存じでしょうか。JALグループは
年間10件以上の美術品輸送に携わり、その歴史は1
970年代の「ゴヤ展」や「モナ・リザ展」まで遡
ります。絵画の空輸が珍しかった当時、旅客機の座
席の一部を外した特別便に特製コンテナを設置し、
気圧や温湿度の変化、離着陸時の振動から守ったと
いう記録が残っています。皆さまのお座席の下、「ベ
リー（お腹）」と呼ばれる空間や貨物専用機を使っ
て輸送している現在も、繊細な取り扱いを要するこ
とは変わりません。搭載の向きや位置などを緻密に
計画し、空港内は低速搬送で衝撃を抑えるなど、細
やかなアレンジをしています。

こうした目にするのではない輸送力は、実はさま
ざまなシーンで陰の立役者になっています。早朝、
豊洲で取り引きされた鮮魚がその日の夜に香港のお
寿司屋さんに並ぶこと。繊細な保管が求められる医
薬品を、一定の温度を保ち確かな品質でお届けする
こと。最近では、再生医療に欠かせない細胞輸送の
オーダーメイドサービスなどにも挑戦しています。

お届けものの その先に



少し前の話になりますが、成田空港の「上屋^{うわ}」に
行く機会がありました。ここは輸送前の貨物を保管
する巨大倉庫ですが、行き先や管理条件がさまざま
な品々が整然と並び、社員たちが丁寧かつ無駄のな
い動きで荷を扱う様子に、こうした日々の積み重ね
こそがお客様さまの安心や信頼につながることを実感
しました。振り返ると、人々の移動が大きく制限さ
れたコロナ禍、航空事業の大黒柱として、マスクや
ワクチン、生活必需品を運び続け、人々の生活を支
えてきたのも貨物事業でした。私たちがお届けする
一つ一つが、誰かの安心や笑顔につながっていると
思うと、その役割の尊さを改めて感じます。

JALグループでは、お客様さまの想いに応え社会
に貢献するために、貨物専用機の導入や他社とのネ
ットワーク提携など、これまで以上に翼を広げてい
ます。人々の暮らしや文化、そして未来を支える
JALCARGOにますますご期待ください。

次回のご搭乗も、貨物輸送のご用命も、心よりお
待ちしています。

イラスト／山本祐布子

とっとりみつこ／1964年、福岡県久留米市生ま
れ。1985年4月入社（客室乗務員）。2011年に客
室安全推進部長、2020年に執行役員・客室本部
長。2022年に常務執行役員・客室本部長、2023
年に専務執行役員・カスタマーエクスペリエンス本部長
に就任。同年6月に代表取締役専務執行役員・グルー
プCCOに就任し、翌2024年4月から現職。趣味は
音楽鑑賞と大河ドラマを見ること。

